平成29年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会 議事録

日時 平成29年8月9日(水) 19:30～21:26

場所 福山ニューキャッスルホテル松の間

出席 (委員)

谷秀樹委員長、平田光章副委員長、平川勝洋委員、金澤右委員、石原広一委員

(府中市病院機構)

多田敦彦病院機構理事長、小森祐一郎病院機構事務局長

(府中市)

戸成義則市長、九十九浩司健康福祉部長

(事務局：府中市健康福祉部健康政策室)

皿田敏幸室長、片山尚伸病院運営担当監、杉原裕二係長、熊澤芳昭主任主事

●健康福祉部長 それでは、失礼いたします。定刻となりましたので、ただいまから、平成29年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を開会いたします。

午後 7時30分

~~~~~

●健康福祉部長 委員の皆様には、御多用の折、また、夜間の会議にもかかわらず御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます府中市健康福祉部の九十九と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の評価委員会では、事前にお知らせしておりますように、平成28年度財務諸表の承認に向けた意見聴取及び平成28年度業務実績の評価について御審議いただくようにしております。円滑な進行に心掛けてまいりますので、どうぞよろしく願いいたしたいと思っております。

最初に、新たに評価委員に御就任いただきました委員の御紹介をさせていただきます。今年度より、岡山大学病院の病院長に御就任されております、金澤右先生でございます。

●金澤委員 金澤でございます。よろしく申し上げます。

●健康福祉部長 金澤先生には、前任の槇野委員に代わり、評価委員として御就任いただいております。金澤先生、今後ともよろしく願いいたします。

それでは、まず委員の皆様方の出欠について報告いたします。本日は、谷評価委

員会委員長を初め全委員の皆様にご出席いただいております。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。本日の会議資料といたしまして、委員の皆様には事前に資料を送付させていただいております。時間の都合上、一つ一つは確認はいたしません、皆様、本日お持ちになっていただいておりますでしょうか。

ここで、資料の一部修正がございましたので、御紹介をさせていただきますが、事前に送付いたしておりました資料5-2でございますが、机の上に、修正分、差し替え分を置かせていただいておりますので、事前配付資料と差し替えをお願いをしたいと思っております。資料の確認は以上でございますが、会議の進行途中でも結構ですので、資料がないようでしたら、おっしゃっていただければ、事務局の方で配らせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

続きまして、本日の会議の公開及び傍聴の方法についてでございますが、事前にお知らせいたしておりますように、本日の評価委員会は報道関係者に公開することとしております。次第の4、前回評価委員会についての報告以降は撮影を禁止とさせていただきますので、その旨御了承いただきたいと思っております。

それでは、開会に当たり、府中市長、戸成義則からごあいさつを申し上げます。

●市長 皆様、こんばんは。委員の皆様におかれましては、大変御多用の折、地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

早いものでございまして、第2期中期目標期間も、その初年度が終了したところでございますが、委員の皆様からの病院機構の病院運営に対する多大なる御理解と御支援には、いつも感謝をいたしておるところでございます。

さて、府中市民病院改築事業におきましても、すべての工事を完了し、11月13日には病院機構と行政とで協力し、グランドオープン記念式典、あるいは府中市民病院まつりを開催することができました。改めまして関係の皆様へ感謝を申し上げたいと思っております。

本日の会議では、平成28年度の業務評価をいただくわけでございますけれども、事前に拝見いたしました資料では、年度当初の収支見込みを上回る成果があったとのことで、多田理事長を初め、病院機構関係者の皆様の御尽力に敬意を表したいと思っております。

一方、医療を取り巻く環境は大きく変化をとげております。平成27年度には、広島県地域医療構想が策定されまして、病院の医療、介護機能の分担、連携が進められております。また、来年度にかけて、新たな広島県保健医療計画の策定が進められているところでございます。診療報酬、あるいは介護報酬の同時改定も予定さ

れておるところでございます。こうした環境変化の一環ではありませんが、報告事項にもありますように、法律の改正によってこの評価委員会の役割も若干変更されることとなります。しかし、私といたしましては、法律上の役割は変わったとしても、委員の皆様には、引き続き府中市病院機構の運営に支援していただきたいというふうに思っておるわけでございます。

委員の皆様におかれましては、決して十分な時間ではないかと思っておりますけれども、今後の病院運営に資するよう、忌憚のない意見をいただきたいというふうをお願いを申し上げたいと存じます。

開会に当たりましてのごあいさつとさせていただきます。どうぞ本日はよろしくお願いいいたします。ありがとうございます。

●健康福祉部長 続きまして、谷委員長からごあいさつをお願いいたします。

●委員長 皆さん、こんばんは。着席のままで失礼いたします。

本日の委員会の評価委員長を務めさせていただきます府中地区医師会の谷と申します。

今回の評価委員会は、前回行いました中期目標、計画の初年度でございまして、市長さんから御紹介がありましたように、昨年からの新病院の診療が開始いたしまして、新たなスタートを切ったわけで、最初の年度の評価委員会ということで、非常に責任の重さを感じております。本日は皆さんの御意見を伺って、今後につなげていけるような正当な評価をさせていただきたいと思っております。

本日はよろしくお願いいいたします。

●健康福祉部長 ありがとうございます。

本評価委員会の概要及び本日の会議の目的などにつきましては、参考資料等を事前に送付させていただいておりますので、説明は割愛をさせていただきたいと思っております。

ここで報道機関の皆様方をお願いをしたいと思います。これより先につきましては、席での傍聴のみとさせていただきますので、御協力願います。

それでは、以降の進行につきましては、委員長をお願いいたします。

●委員長 それでは、よろしくお願いいいたします。

それでは、次第に沿いまして進行させていただきます。

~~~~~

●委員長 まず初めに、次第の4でございまして、前回の審査委員会、書面審査についての報告を事務局の方からお願いいたします。

●事務局 失礼いたします。

それでは、資料1、「平成29年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会書

面審議表」をごらんください。

本年6月に、地方独立行政法人府中市病院機構の業務実績に関する評価基準等の見直しということで、書面にて御審議をいただきましたが、委員の皆様から、資料1のと通りの御回答をいただきました。今回の評価委員会から、この御承認いただいた基準で評価を行っていただくこととなりますので、どうぞよろしくお願ひします。

なお、新たな評価基準につきましては、再度本日の資料の参考資料2としてお配りをいたしておりますので、御確認をよろしくお願ひいたします。以上でございます。

●委員長 ありがとうございます。

~~~~~

●委員長 それでは、次第の5、議事に移らせていただきます。

はじめに、協議事項でございますけども、最初の①、平成28年度の財務諸表に対する意見聴取ということで、始めさせていただきます。

まず、事務局の方から、資料2でしょうか、地方独立行政法人府中市病院機構、平成28年度の財務諸表の確認について、説明をよろしくお願ひします。

●事務局 それでは、引き続きまして、資料2、「地方独立行政法人府中市病院機構平成28年度財務諸表の確認について」によりまして、事務局が確認しました結果について報告させていただきます。

なお、この内容は、財務諸表の提出等の事務処理が法令の規定に基づいて行われているかどうかを確認したものをまとめたものでありまして、病院機構の決算状況そのものを評価しているわけではございませんので、あらかじめ御了承ください。

それでは、「1 提出書類」ですけれども、地方独立行政法人法等に規定されております「(1) 必要な書類等の提出」及び「(2) 提出期限の厳守」については、全ての書類が法に定めます期限内に提出され、受理をいたしております。

次に、「2 財務諸表の整合」についてですけれども、表の右側の「確認結果」にございますように、地方独立行政法人会計基準に照らし、適正処理をされていることを確認しております。

続きまして、一番下、「3 監事の意見」でございますが、監事の監査報告書に、適正である旨記載されておりました、財務諸表の承認に当たり考慮すべき意見はありませんでした。

裏面に参りまして、一番上、「4 運営費負担金」及び「5 その他法の遵守」についても、いずれも適正に処理をされていることを確認しております。

以上、財務諸表の確認結果について報告させていただきましたので、よろしくお

願います。

●委員長 それでは、ただいまの財務諸表の確認に関しまして、何か御意見、ございますか。

ないようですので、それでは、地方独立行政法人法の第34条の第3項に規定されております財務諸表に関する意見といたしまして、法令の定めを遵守しているということで、府中市長の方に報告させていただきます。よろしいでしょうか。

～複数委員の「はい」という発言あり。～

●委員長 それでは、その旨報告させていただきます。それでは、次に行かせていただきます。

~~~~~

●委員長 議事の協議事項の②でございませども、地方独立行政法人の平成28年度業務実績に関する評価について、協議を進めてまいりたいと思います。

委員の皆様方には、事前に、先ほど、資料5-2でございませうか、仮評価という形で各項目について評価をいただいております。併せまして、取り組みに対する意見などもいただいております。本日は、この表にありますように、大項目ごとに委員の皆様の意見交換を行いまして、正式な評価を決していきたいと考えておりますが、それに先立ちまして、最初に府中市病院機構から、28年度の決算状況並びに業務実績について説明を受けた上で、各項目の評価に移っていききたいと思います。

それでは、病院機構の方から説明をお願いいたします。

●病院機構理事長 それでは、資料4をごらんください。平成28年度の「事業報告書」に基づいて、事業についての報告をいたします。

3ページの頭のところになりますが、平成28年度から平成31年度の4年間、これ第2期中期計画期間でございませうが、この平成28年度、その初年度となります。収支計画では約1億2,600万円の赤字を見込んでおりましたが、決算では約4,000万円の赤字となりました。この結果の判断としましては、法人としては、来年度以降、第2次中期計画の目標達成に向けて、経営基盤の強化は着実に進んでいるというふうに判断しています。

ただ、3ページの中ほどにありますように、府中北市民病院におきましては、前年度の医師や診療科の変更がないにもかかわらず、大幅な外来収益の減収というふうなことがありましたことは、第2期中期計画の目標達成に向けて、大きな懸念材料ではないかと考えております。

また、次の大項目ごとの特記事項でございませうが、住民に対して提供するサービスなどについてでありますけど、両病院が有する病床の効果的な活用、これは4ページの頭のところになります。図るということと、そして高齢者の在宅生活の支援

及び在宅生活への復帰に必要な医療を提供するために、府中市民病院では一般病棟100床のうち1病棟50床、それで府中北市民病院の方は60床のうち18床の地域包括ケア病床を導入し、より地域に必要とされる病床への転換を図りました。医療の質とともに、また収益の増加というふうな効果も見込んでおります。

また、府中北市民病院では、在宅における医療と介護の総合的サービス事業として、訪問介護看護の事業所「ささえ」を開設し、上下町内で地域密着型の新規事業を開始いたしました。

業務運営の改善としましては、法人理事に病院事業以外の民間事業経営者、両備信用組合の理事長を招聘いたしました。また、これまで欠員となっていました府中北市民病院からの内部理事に、中井副院長兼院長職務代理に就任していただきまして、理事会の機能強化を図っております。

財務内容につきましては、年度計画における指標である経常収支比率は98.9%で、目標の96.6%を達成しております。第2期中期計画の目標達成が見込める経営改善に取り組みました。

その他につきましては、平成27年の12月に府中市民病院の新病院建築工事が完了いたしまして、5ページになりますけど、10月には旧病院の解体、外溝・駐車場の整備工事を全て完了しまして、地域医療を守るための設備が整いました。

最後になりますが、診療科目が増えたことについての御報告であります。これは2ページに戻っていただきまして、府中市民病院の診療科目の中に循環器内科が新たに加わりました。それで、平成29年6月からは心臓リハビリテーションの算定も行うということで、この1月に循環器内科の常勤が一人赴任していただきましたことを踏まえてこういった取組が行われております。

業務については、簡単ですが、以上、御報告申し上げます。

●**病院機構事務局長** 続いて、財務に関するところの報告をさせていただきます。

同じ資料の12ページの中段、第4の「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」のところから説明させていただきます。

1番の「経営基盤の強化による自律した病院運営」というところで、読みます。「法人の経営成績は4,038万円の赤字決算となり、経常収支比率は98.9%でした。年度計画の1億2,643万円の赤字予算に対して、市からの繰入金4億5,000万円（当初4億円、追加支援5,000万円）は前年度と同額で、市から5,000万円の追加繰入金もありましたが、年度計画の主な取組を実行することにより、目標を大きく達成しました。」。

その下の表ですけれども、これはあえて経営成績として、繰入金を除くということで、繰入金は毎年度金額が変わることもありまして、実質、両病院の赤字を表示

したものです。結論だけ言いますと、平成27年度と28年度を比較すると、両病院とも実質赤字は減っております。約5,000万強減っております。

その下の指標です。当初の府中市病院機構のそれぞれの項目に対する目標値に対して実績値が表示してあります。

経常収支比率ですが、目標96.6%に対して98.9%と、2.3%改善されました。医業収益比率は、目標86%、実績値86.3%で、これも0.3%ですが、改善されました。給与費比率ですが、目標値71.4%、実績値72.6%ということで、これは1.2%給与費比率が上がりました。

ページをめくっていただきまして、13ページの上ですが、医業収益は、目標、これは単位は100万円ですので、31億4,700万に対して31億円の実績値で、4,700万円の、目標には達しておりませんでした。入院収益ですが、18億300万に対して18億1,200万円で、若干ですけど900万円目標を上回ることができました。外来収益です。11億5,600万に対して11億2,700万ということで、2,900万円目標に達することができませんでした。経常収支比率に対する市の繰入金比率ですが、目標値の11.2%に対して12.6%ということで、追加の繰入もありまして、1.4%目標には達成できませんでした。

下の方においていただき、第5のところ。「その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置」のところですが、2番の「医療機器などの整備」について報告します。

本年度の投資経費は1億562万円で、府中市民病院の駐車場整備や外構工事に要した経費がほとんどです。府中北市民病院のオーダーリングシステムの更新を予定に入れておりましたが、今年度見送ったことにより、施設整備や医療機器整備に係る借入限度額1億3,700万円に対して、実際の借入実績は9,000万円に抑えられました。

主な項目については14ページの上の表になります。内訳でいいますと、府中市民病院の主な設備投資は、構築物として東エリア外構工事、主な購入機器は電気乾燥機万能プレス、皮膚灌流圧測定装置、内視鏡室高周波手術装置などが主なものです。府中北市民病院は、主な購入機器は心電計、薬用冷蔵庫になっております。

最後になりますが、ページをめくっていただき、16ページの表の下のところになります。第7のところ、「短期借入金の限度額」です。法人始まって初めて短期借入金を行いましたので、その報告です。平成28年12月20日、賞与の支給等による一時的な資金不足に対応するため、市中銀行から1億5,000万円を借り入れました。短期借入金ということで、平成29年3月31日の年度末に全額一括返済をしているところです。

以上、財務関係の報告を終わらせていただきます。

●委員長 ありがとうございます。

ただいまの病院機構からの説明に基づきまして、これから各評価に移っていきたいと思います。御質問等は、それぞれの評価のときに意見を出していただけたら結構でございます。

それでは、評価に移りたいと思いますけど、まず資料の5-2、きょうお配りしたもののなんですけども、これ、事前にお願ひした仮評価の、取りまとめたものでございますけども、先ほど説明がありましたように、それぞれの委員の先生方にお配りしたのが、委員の先生のところだけが名前が書いてあって、あとは匿名ということでさせていただいております。これ、色が付いておりますけども、黄色が付いておるんですけども、色の付いている項目っていうのが、ほかの委員の方との差があるところですね。それからまた、府中の病院機構との、自己評価と差があるところに色が付いております。

これからの評価の進め方でございますけども、ここの表のとおり、大項目、中項目、小項目とございますけども、大項目の中項目ごとに、病院機構の方から説明、補足がありましたら説明していただいて、その後小項目ごとに仮評価の状況を確認していきたいと思います。委員の先生方の仮評価が同じ場合はその評価がよいかどうかを確認させていただきます。それから評価に差がある場合には皆さんの御意見を伺って決定をさせていただきたいと思います。

それで、この小項目の評価が全部済みましたら大項目の評価ということにさせていただきたいと思います。そのような流れでいかせていただきます。それでよろしいでしょうか。

～複数委員の「はい」という発言あり。～

~~~~~

●委員長 それでは、早速でございますけども、大項目の2、資料の5-2の一番上でございますけども、大項目の2、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置」ということについて評価を行っていきたいと思います。

何か追加の説明が機構の方からありますか。

●病院機構事務局長 小項目の評価のところそれぞれ補足説明をさせていただけたらと思います。

●委員長 それぞれですね。

●病院機構事務局長 そのときにまた手を挙げさせていただきます。

●委員長 そうですか。それでは、まず最初に中項目1の「提供する医療の内容」

というところから始めさせていただきます。ここは、小項目は(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、ございまして、それぞれの先生の御意見は一致しております「3」、それから機構の方の自己評価も「3」ということで、これは、すべて皆さんの意見では一致しております。それじゃあ、一つずつ行きましょうか。ここは全部一緒でございますけど、それでは、小項目(1)、「高齢化に対応した医療」ということでございますけども、ここで何かありますか、追加は。

●病院機構事務局長 この法人の自己評価と各委員の仮評価が同じところについては、特に補足説明はありません。

●委員長 よろしいですか。ここの1のところはよろしいですか。それでよろしいでしょうか。それでは、追加の方はないということなんですけども、委員の方からは何か御質問、意見はございますか。ないようでしたら、皆さんの意見、それから機構の方の自己評価は一致しておりますので、この大項目第2の中項目1の小項目全てに関しては仮評価の「3」ということでよろしいでしょうか。

～委員から異論なし～

●委員長 そのようにさせていただきます。

~~~~~

●委員長 それでは、次に移らせていただきます。大項目2の2、「病院が担う役割の確立と診療機能の確保」というところでございますけども、これについては、まず小項目(1)、「両病院の将来像の確立」ということでございます。これは意見が、「2」が4名、それから「3」が1名です。自己評価「2」ということでございますが、これについて何か追加がございますか。

●病院機構事務局長 特に補足説明はありません。

●委員長 ありませんね。それでは、この「両病院の将来像確立」についての評価を行います。いかがでしょうか。委員の先生から御意見はございますでしょうか。

「2」が多数でございまして、また、これに関しては委託の調査をしたけれども、それ以上のことは進んでないというような評価でございます。これから今後それに基づいて進めていくということでございますけども、どうでしょうか。「2」が多くございますけども、評価は「2」、年度の計画を十分に実施できていないというようなことでよろしいでしょうか。御意見がありましたら、委員の方。

～委員から発言なし～

●委員長 よろしいでしょうか。それでは、ここの2の(1)は、「2」ということで評価させていただきます。

~~~~~

●委員長 続きまして、(2)、「必要な診療機能の確保」というところでございます。

これは、病院機構は「4」という評価、上回っているという評価です。それで、「3」が2名、「4」が3名となっていますが、ここは何かありますか。追加がありますか。

●**病院機構事務局長** 法人の評価としたら「4」ということで、この間、法人としては常勤医師の招聘というところを理事長を中心に取り組んできたんですけども、なかなか実現してこれなかった。それが、28年度、一人ではありますけれども、その招聘ができたということで、大きな評価をいただきたいと、そういう思いもあって、「4」ということにさせていただいています。

●**病院機構理事長** ちょっと追加いたしますと、来ていただいた先生は、専門が循環器ということでありまして、当院のこれまでの内科常勤医の守備範囲がちょっと弱い部分であった、循環器というのは弱い部分でありましたが、そこを補っていただきました。さらに、心臓リハビリテーションを立ち上げるという、これはかなり大きな事業だったのですけれども、いろんな多くのスタッフをリードして立ち上げて、動き始めているという点も御評価いただければと思っております。

●**委員長** ありがとうございます。内科常勤医師が1名来られて、特に循環器の先生が来られて、今後に向けて、ここには載っておりませんが、今後心臓リハビリテーションなどを幅広くやっているということでございますけれども、その辺が評価をどのようにするかということでしょうけれども、厳しい中で内科医が来てくださった、招聘できたということですね。いかがでしょうか。「4」が多くございますけれども、御意見ありますか。

～委員から意見なし～

「4」が多くございますけれども、それから機構の方からの説明がございましたけれども、上回って実施できているということでよろしいですか。御意見、「4」でよろしいでしょうか。

～委員、承諾～

●**委員長** よろしいですか。それじゃあ、中項目2の(2)は「4」ということで決定します。

~~~~~

●**委員長** それから、次、中項目の2の小項目(3)でございますけれども、「ICT技術を活用した地域医療連携」。これは皆さんの御意見が一致しておりますけれども、これは、HMネットワークづくりをしたということでございますけれども、参加して地域に役立てていく。これは「3」でよろしいでしょうかね。順調に進んでいるという。これは、HMカードはどのくらい発行されているのですか。

●**病院機構事務局長** 実は、枚数自体は、まだ府中市民病院単独ですと30枚足らず。それは、この資料へも書いてありますけど、開示病院として情報開示できるよ

うになりましたけど、やっぱり画像がまだ出せないというところがありまして、なかなか地域住民、地域のクリニックの先生にもアピールしきれないところがありまして、なかなかカードの発行枚数は増えておりません。

●委員長 ありがとうございます。今後ということですね。画像情報入力システムに関しても、なかなか高額なものがかかるということですが、今後できるところから始めていただきたいと思います。

~~~~~

●委員長 それでは、次の小項目の(4)、「広域的連携体制構築が進められている医療への対応」ということですが。これは「3」が多いようですが、これは特に婦人科検診でしょうか。それから非常勤ながら小児科の先生が頑張ってください、現状が維持できているということで、目標達成ということの「3」でございましょうけども、いかがでしょうか、御意見ございますか。

～委員から意見なし～

●委員長 よろしいですか。これも概ね順調に推移しているということで、「3」でよろしいでしょうか。

では、「3」の意見が多くございますから、2の(4)も「3」の評価とさせていただきます。御意見があったらおっしゃってください。

~~~~~

●委員長 それでは次に移らせていただきます。中項目3、「地域包括ケアシステムの構築」でございます。ここは(1)、(2)、(3)とございますけども、これは皆さんの御意見が一致しておりますけども、何かこの項目で御意見、御質問がありますでしょうか。

これ、(3)のとこなんですけど、「医療・介護の総合的なサービス提供」ということなんですけども、北市民病院の4階施設が、有効利用、これは方針としては、もう方向性としては決まっておられますか。

●病院機構事務局長 まだ具体的なところは公表できないところはあるんですけども、行政の協力をいただきながら、今、方向としては居宅系の施設への展開という方向性を、具体的に検討に入っているところです。

●委員長 今後また検討して、地域に役立てるような有効活用をしていただきたいと思います。ほかにもございませんか。

～委員から意見なし～

●委員長 それでは、この項目、3の「包括ケアシステムの構築」に関しては、小項目すべて皆さん方が一緒なので、「3」ということにさせていただきます。よろしいでしょうか。

～委員、承諾～

~~~~~

●委員長 続きまして、中項目の4、「医師及び医療従事者の積極的かつ計画的な確保」ということでございますけども、ここに関しては、(1)は、「医育機関をはじめとした関係機関への協力要請」ということでございますけども、これは各大学の先生方にもお世話になっております。ここは皆さん、「3」が意見ということで、順調に取り組まれているということでよろしいかなと思いますけども、ここは「3」でよろしいでしょうかね。皆さん、御意見ありませんか。あればおっしゃってください。

～委員から意見なし～

●委員長 では、今後も医師の招聘について、力を注いでいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

~~~~~

●委員長 続きまして、次の4の(2)、「臨床研修体制の充実」というところがございますけども、これは「2」が多くございまして、「3」の先生が1名いらっしゃるということでございます。これについて何か機構の方からありますか。特にございませんか。委員の先生は御意見ありますか。

～委員から意見なし～

●委員長 自己評価に書かれてありますように、地域医療病院コンソーシアム府中として連携、形としては、目に見えてくるにはまだ少しこれからというところで、この取組についても少し力を注いでいただいて、目標を達成するというようなことで、ここは「2」ということでよろしいでしょうか。今後、本当、専門医制度もありますから、いろいろそういうプログラムとか、それから経営などについてもいろいろ御苦労があると思いますけども、連携を取りながら進めていただきたいと思います。じゃあ、これは「2」ということでよろしいでしょうか。御意見ありませんか。

～委員、承諾～

~~~~~

●委員長 それでは、次の4の(3)、「看護師養成機関等との連携」ということでございますけども、これは、機構が「4」で、3名の先生が「4」で、2名の先生が「3」ということでございますけども、これはどうでしょうね、新卒の看護師4名が採用されて、うち2名が、24年から始まった奨学金制度で貸与された方が新卒で入られたということで、目標は達成されていると思いますけども、そのうち2名の方が、1名が北市民病院に入られて、どうでしょうか。御意見の数から言う

と「4」、計画を上回って実施できてるということなんでございますけども、これは、ここに書いてある奨学金を今受けている方、まだ勉強されている方があと3名いらっしゃるということですか。

●病院機構事務局長 はい。

●委員長 それでは、目標は、次にまた達成できるという…。

●病院機構事務局長 来年度は一人の予定です。

●委員長 そういうことも含めて、それじゃあ、達成できていると。次の、来年度のことも期待できるということで、「4」でよろしいでしょうか。

～委員から異論なし～

●委員長 それから、地域の准看護学院の生徒、人材を育成してくださってるということで、十分できてるんじゃないかと思えます。ここは「4」ということでさせていただきます。

~~~~~

●委員長 次は、「子育て世代等に配慮した職場環境の整備」です。これは「2」でございますね。これについては皆さん、意見が統一されて「2」でございますが、どうなんでしょうかね、これ。院内保育所があるということなんですけども、これがまだ十分には整備ができてないということなんですかね。

●病院機構事務局長 補足します。書いてありますけど、今定員が8名と限定されてますので、実際、今現在8名の定員いっぱい入ってますので、そういう働きやすい環境づくりのための施設でありながら、今いっぱいの状態なんで、これをアピールして、例えば看護師の招聘とか、なかなか実際にはできないという状態になっているので、このところを定員増を図るとか、その辺り、変えていきたいなというように思っているところです。

●委員長 ありがとうございます。

●平田委員 ちょっと教えてください。今の8人は全部病院職員の方ばかり…。

●病院機構事務局長 病院職員の子どもばかりです。一般はいません。

●平田委員 これ、一般も入れるようになっていましたよね。

●病院機構事務局長 今は入れません。

●平田委員 入れない。

●病院機構事務局長 入れない。

●平田委員 完全に院内保育みみたいな形になってる。

●小森事務長 そうですね。

●平田委員 そうだったんですか。

●健康福祉部長 事業所内保育所の認定を受けていませんので、完全に施設だけの

ためのものになっていますので。

●平田委員 認可を受けたら…。

●健康福祉部長 認可が下りれば一般からも受け入れることができます。

●石原委員 それでいくと、どれぐらいの定員が望ましいんですかね。

●病院機構事務局長 今、平田委員がおっしゃったように、認可保育所という位置付けで、面積要件の縛りがありますので、定員をふやしても、あと2人、10名かなど。そうなると、先ほど言われたように、一般からの子どもも受け入れる必要が出てくるので、実質ふえても1人とかそういうレベルの話になるので、一番大きなネックは、やっぱり「おひさま」の保育施設の面積要件で定員が決まってしまう、そこが一番大きなネックです。

●委員長 それではその辺の関係につきましては、また市の方とも引き続き検討していただきたいと思います。

それでは、次に向けてということで、「2」ということで評価させていただきます。

~~~~~

●委員長 それでは次にいきますね。中項目の5「地域住民とともに守る病院づくり」ということでございますけども、まず小項目の(1)「患者の利便性と院内環境の快適性の向上」ということ。これは、病院機構は「4」、委員の先生は「3」が3人、「4」が2人ということで、これについては何か追加説明はありますか。

●病院機構事務局長 法人としては、果たして今回の自己評価は府中市民病院の建て替えがあったから患者の利便性と院内環境の快適性が向上しましたということで、自己評価は「4」にしたんですけども、委員の先生方から見られると、果たして病院の建て替えが本来の目標達成の成果なのか、取組の成果なのかというところが、なかなか判断されにくいところがあって、評価は普通じゃないでしょうかと、建て替えは。ということで「3」という評価が多いのかなというふうに思いました。

●病院機構理事長 そのとおりだと思います。我々としては、旧病院から比べると格段の改善であり、またそれに対していろんなアイデアが盛り込まれたと思っているんですけど、やっぱり全国レベルというか、他の病院のレベルからいうと、やっと追いついたのかなというふうにも見えなくもないなというふうな、先生方の評価を見ると、やっと追いついたのかなと、そういうような反省もしております。

●委員長 あるべきものが整ったからと思えばそうかもしれませんし、理事長のおっしゃることを考えれば、かなり進んだ状況で提供できたということで、これ、分かれるところなんでしょうけども、どうでしょうか、委員の先生。

●石原委員 「主な取組」っていうところに書いておられる、業務の効率化と患者の待ち時間短縮を図りましたっていうことがあるんですが、これはやっぱりこうい

う効果があったということでしょうか。

●**病院機構事務局長** かなり業務の効率化は図られて、各部門システムと電子カルテが連動してますので、例えば医師からのオーダーが出て、それに対して各部門へそれが届くと。特に放射線科の画像なんかだと、撮ったらそれがすぐに電子カルテで返ってきて、診療・診察の現場で見ることができる。そんなところで、そういう今まで業務にかかっていた時間のところはかなり短縮できた。

●**委員長** その辺を、患者サイドとして、待ち時間を短縮に貢献してよりよい診療ができていくということを考えれば、上回るという評価につながるかもしれませんね。

●**金澤委員** 厳しいことを言うと、そもそもそれを目標にしてつくられたわけですよ。そうすると、先ほど院長が言われたような、目標どおりになったねっていう考え方、僕はそういう評価をしたんですけど、ただ、多田先生や事務局長のお話を聞くと、恐らく職員の思いというのは、いわゆる患者さんの思いというのは、恐らく前とは違うっていうことなんだろうと。

●**委員長** 御意見いただいたんですけども、いかがでしょうか。

●**金澤委員** 僕は「3」にしたんですけども、「4」にします。その思いを感じると。

●**委員長** 機構からの説明もありましたんで、その思いもありまして、よくなったということで、「4」ということでいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

～委員から意見なし～

●**委員長** ですからこれを、「4」という評価が出たんで、これからも続けてサービスを強く、患者さんに、高めていただきたいと思います。そういう期待を込めて「4」ということに、それじゃあ、いたします。

~~~~~

●**委員長** それから、次、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)は、これは皆さんの御意見が、機構の意見も一致しております。これについて、何か皆さん、御質問、御意見、ございましたらどうぞ。

～委員から意見なし～

●**委員長** よろしいでしょうか。よろしければ、じゃあ、(2)から(6)は評価どおり「3」ということでさせていただきます。よろしいですか。

～委員から異論なし～

~~~~~

●**委員長** では、次に移らせていただきます。それでは大項目の3になります。次のページですね。

「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置」とい

うことをございますけども、これ、まず1番、運営管理体制の確立ということをございます。

●病院機構事務局長 委員長、補足説明を。

●委員長 ここですね。

●病院機構事務局長 この項目ですけれども、法人の評価は「4」ですが、委員の皆様方の評価は「3」ということで、補足説明をさせていただきたいと思います。補足するところは、経営戦略室を経営戦略会議に再編しましたというところで…。

●委員長 ちょっとお待ちください。ここに委員の先生からの御質問があります。経営戦略室のことが出たんで、会議を実施したことの効果、それも踏まえて説明、補足なりを。

●病院機構事務局長 わかりました。経営戦略会議を実施したことの効果はどのようなものかという意見もいただいておりますので、法人が考える組織的な経営戦略機能の強化についてですけれども、年度計画イコール全体戦略達成のために個別の事業戦略の具体化を各部署単位まで一貫性を持って、整合性を図りながら進めるための体制というふうに考えております。

具体的に言いますと、平成28年度では、全体戦略というと、大きな目標であります年度計画の収支目標を達成することにあります。それを達成するために、個別の事業戦略として、その一つに地域包括ケア病床の導入ということがありました。この事業戦略の具体化に向けて、各部署単位の取組なんですけれども、看護部は各病棟の機能連携や介護職員の配置ですとか、医事課においては病床の収益シミュレーションであったり、病床変更までのいろんな報告業務、また人事課については新たな病床に対応するための職員採用など、そういった関係部署が一貫性、整合性を図りつつ時間的にも効率的な事業達成ができたというふうに思っております。そういう意味で、この経営戦略会議は、繰り返しますけど、全体、法人の計画を各部署単位の業務に至るまで、一貫性、整合性を図るために機能したというふうに捉えております。

以上、補足説明、終わります。

●委員長 今、事務局長が言われたように、改善するために、非常に経営戦略会議がより役立って、いろんなことが改善されてきたというところをどう評価するかというところなんでございませうけども、どうでしょうかね、皆さん、御意見は。皆さんの御意見は「3」でございますけども。

●病院機構事務局長 すいません、ちなみにもう一言だけ補足なんですけど、じゃあ27年度の経営戦略室はどういうものであったかというところ、経営戦略室の担当者、1名と。これは大きな病院の事務長、何ヶ所かの病院の事務長経験がある方を招聘

して、その人一人の経営戦略室であって、その担当者と理事長と私、事務局長が定期的に情報を共有すると。そこで止まっていたので、どちらかというところだけしかできていなかったということがありますので、それは全体計画を実現するための個別事業戦略、さらに各従事者単位の取り組みと、そういうところまで整合性を持って取り組めるような形に変えましたという説明です。

●委員長 ありがとうございます。ただいまの御意見があったんですけれども、それに関しましてどうでしょうか、皆さん。

●平田委員 ちょっといいですか。どこで言おうかなと思ってたんですけれども、全体を評価をされてる分が、昨年と同じようなことを申し上げたんですけれども、中期計画なり年度計画があって、それに対しての業務報告なんですね、今回。中身を見るといろいろ、何々をしましたとかやりました、ここもそうなんです、戦略会議をつくりました。誰々入れました。今説明聞くと、とりあえず1人だったのが今度は全体で動くようになりましたという説明なんですけど、言ってみれば、それは2から3になったぐらいの話であって、もともとができてない。そういうような感覚なのが多い。で、今回評価方法も変えましたから、全体としたら去年ほどの齟齬はなくなってますね。なんですけど、私、今年見てもやっぱりね、何々しましたって書いてあっただけでは、なかなか評価しにくいんですよ。目標に対してこうなりましたとか、それがよかったのか悪かったのかっていうのがどれもないと、判断しにくいですよとだいぶ申し上げたと思うんですが、今年も変わってない。だからそういうのをね、全体で少ししてもらえばいいなど。だから「今後の取組」というところにも書いてありますけども、そこら辺りも目標に対してどうやって、何が足りないからこうするんですとか、もう少し細かい分析をして評価をしていただかないと、それが3なのか4なのか2なのか、私もね、付けにくかった。今いろいろ齟齬があるところの補足説明を受けるとわかることもあるんですけども、そういった評価がね、今回はもう終わってるからあれなんですけど、ぜひ来年度に向けてはそういう評価をしていただかないと、評価委員は書面だけで見ますので、その辺り、非常にわかりにくいというのがありました。だから、ここら辺りはそういうような評価に、皆さんがなっているというように思います。私、代表して申し上げます。

●病院機構事務局長 一言。昨年度、平田委員からそういう意見をいただきましたので、余り印象的には変わらないかもしれませんが、実は、今回の資料の自己評価の理由というところを新たに設けまして、委員の意見に対して説明できるようにという努力はしたつもりなんですけども、まだ不十分ということですので、また来年の課題とさせていただけたらと思います。

●平田委員 理由はね、やったことしか書いてない。それは評価に値するのかどう

なのかっていうのが、表現がね。せっかく努力されたんなら、目標に対してどうだったのかと。でないと、判断しにくいんです。よろしくお願いします。

●委員長 ありがとうございます。では、そのように、確かに評価しにくいと思います。目標を決められて、それに対してどのくらいだったか、到達はどのくらいしたのかということをお示しただけならと思います。ありがとうございます。

では、評価に戻りますけども、いかがでしょうか。これはあるべき姿だとは思っているので、次年度に向けて更なる検討をしていただく、それから経営戦略会議へさらなる検討をしていただいて、前へ進んでいただくということで、どうでしょうか、委員の判定どおり「3」ということにさせていただけたらと思いますが、どんなでしょうか。御意見があればおっしゃってください。よろしいですか、「3」で。

～委員から異論なし～

●委員長 では、よろしくお願いいたします。

~~~~~

●委員長 では、次に移らせていただきます。

それでは、次へいきますね。2番、「効率的で弾力的な人員配置」。これは、皆さん、「3」ということでございますけども、これはよろしいですね。これは、病床転換するための配置を行ったということで「3」。リハビリの理学療法士をということで、これは「3」でよろしいですね。よろしいでしょうか。

～委員から異論なし～

~~~~~

●委員長 では、次に移らせていただきます。

続きまして、次の中項目の3、これは(1)、(2)一緒でございますね。まず(1)は「医師及び医療従事者の専門性及び医療技術の向上支援」、それから(2)は「事務職員の確保・育成と専門知識習得支援」。これは研修会等々でしょうか。これについてはよろしいでしょうか。これは順調に、予定どおりということで、特に御意見ございませんか。

●平田委員 これ、努力されてやられてるのはわかるんですけど、当初の目標である完全なる独立した体制、特に管理職の問題とかそういった問題の取組状況というか、見通しとかそんなもの、何かございますか。

●病院機構事務局長 今年度当初に法人の要のところの人事課長及び総務課長、2人市からの派遣ということでいただいたんですけども、それは、この第2期中期計画、中期目標が達成できるように行政としても支援するというスタンスできていただいていますので、最長でも中期目標の最終年度までということになってます。なので、その要の課長のところはなかなかまだ人材、後任について見通しがまだ立っ

てる状況ではないですが、係長級のところは順次法人の職員に移行を進めており、予定どおり係長のところは法人職員に移行できるというふうに思っています。実際にこの7月に、実は7月1日に人事課の係長、市から派遣いただいていたんですけども、法人独自の職員に移行するというので市の方へ帰っていただいたということもあります。なので、今一番大きな課題は要の課長級のところ、ここを今後どういうふうに法人職員に移行するかというのが、まだちょっと見通しが立たない大きな課題のところなんです。

●平田委員 はい、わかりました。

●委員長 ほかに御意見ございませんか。

それでは、3の3、中項目3のところは小項目3ということでさせていただきます。

~~~~~

●委員長 では、次に移らせていただきます。

続きまして、中項目の4、「働きやすい職場環境の整備」ということでございますけども、まず(1)番、「働き甲斐を感じることができる仕組みづくり」ということです。ここは…。

●病院機構事務局長 委員長、補足説明をさせていただきたいと思います。

●委員長 御質問があるので、それに…。

●病院機構事務局長 含めて。委員さんの質問は、この項目の目標に対して、自己評価の理由が病院のトップが直接各職場の思いを聞く取組、ヒアリングができた、それが評価なのかと、恐らくそういう思いで評価されたのだと、質問されてるのだと思います。そこで、的確な補足もできないんですけども、ヒアリングが職員のやる気を引き出し維持できる仕組みの全てとは、もちろん思ってません。しかし、幹部会があるんですけど、幹部会だけでなく、直接個別に部署ごとに職場の声を聞く機会を設けることで、職場によっては幹部会に出席できない主任級とか、そういう職員も課長と同席してヒアリングに臨むと、そういう積極的な部署の姿勢も感じることができたところです。医療機器の整備の関係は、ヒアリングをした後、幹部会で、平成29年度の医療機器整備については全体でこれだけの要求がありました、ヒアリングの結果、これとこれとこれの機器を整備することにしましたということ。を幹部会へ返すと、周知するようなこともしましたし、あと業務改善については、まだヒアリングの結果こういう業務改善を始めましたということまでは至っていませんけれども、今年度の取組として、特に看護部、看護職員の業務の負担軽減については、法人全体、病院全体として取り組むということで、業務負担の軽減策を近々全職員に提案するというような準備も進めていますし、あと、また別の部署で

は、今委託している業務について、今の業務委託ではなくて、自分たちがもっと本来の業務に力を注げるような業務委託の形に変えてもらいたいという声もありますので、それについても担当の職場と具体的な業務委託のあり方について検討を進めているところですので、ヒアリングの結果、職員のやる気を引き出す成果が出ましたという結論めいた報告はできませんけれども、そういう取組をしているところでございます。

●委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

●平田委員 だから、少し書いてあれば、評価、さっき言ったような全体的な話なんですけど、聞けば出てくるけど、わからないでしょ、ヒアリングしましたというだけでは。それがどうしたんだという話になる。

●病院機構事務局長 申し訳ありません。たった2行で申し訳ありません。

●平田委員 評価に値しない。よろしくをお願いします。

●委員長 今後少しこういうスタイルをわかりやすくしていただきたいと思います。ヒアリングというのは本当にモチベーションも上がりますし、今後も続けていただきたいと。目に見えない効果っていうのがあろうかと思っています。わかりやすいようにしていただきたいと思います。

それでは、ここは「3」ということでよろしいでしょうか。

～委員から異論なし～

●委員長 続きまして、次の4の(2)と(3)でございますけども、ここは委員の仮評価は「3」で一致しておりました。特にございませんようでしたら、評価は「3」とさせていただきますと思います。

~~~~~

●委員長 では、次に移らせていただきます。

次は、大項目第4「財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置」ですね。まずは中項目1、小項目(1)「予算執行の弾力化」ですが、これにつきましては事例がないということでしたので、仮評価の対象外とさせていただきました。

●平田委員 ちょっとよろしいですか。先ほどの事業報告書の中で説明がありましたが、経常収支比率の目標96.6%に対して98.9%になったとありました。元々が赤字予算1億2,643万円に対して決算4,030万円となったということですが、当初予算は市からの繰出は4億円で試算されていたわけですね。では、市からの繰出が4億円だった場合の決算における経常収支比率はいくらだったのでしょうか。

●病院機構事務局長 追加支援がなかったなら、という話ですね。申し訳ありませんが、そこまで計算しておりません。

●平田委員 元々は市からの繰出は4億円だったわけでしょう。5,000万円追加支援してもらったから決算が目標より良くなりましたと報告されても、それは比較できないでしょう。追加支援がなかったとしても目標の1億2,643万円よりは改善されているわけですから、そこはもちろん評価させていただきます。

ただ、追加支援があったから経常収支比率が良くなりました、というのでは、そこまで胸を張れるような話ではないと思います。

もう一点、北市民病院の外来が急激に減少しているという説明がありましたが、そこについてはどう評価されていますか。

●病院機構事務局長 収益面ということで申しますと、外来収益で最も落ち込んでいますのが透析。透析患者さんが亡くなられると患者数が減るということで、透析のところの外来収益が一番落ち込んでいますけれど、他の診療科についても全体的に減少傾向にあります。

その辺りは、28年度に市が業務委託しました分析でも、徐々に外来が減っていく地域とされていますし、外来減少の決定的な原因は何かということは見えておりません。なので、今後患者が増えるということはないので、計画の見直しも含めて考えていく必要があると思っています。

●平田委員 依然として北市民病院の経営状況は厳しいので、「経営基盤の強化による自律した病院運営」という項目で意見を申し上げるとすれば、そういったところをしっかりと分析していただいた上で、行政と十分に連携しながら、今後の病院運営をどうしていくのかということを協議していかなければいけない時代ではないでしょうか。だんだん人口も減少していますし。

先ほど透析患者数の減少の話がありましたが、透析のベッド数に変更はないのでしょうか。

●病院機構事務局長 変わっていません。

●平田委員 透析は府中市民病院でもやられていますよね。

●病院機構事務局長 府中市民病院は22床、北市民病院は6床です。

●平田委員 その辺りはしっかりと経営分析を行ないながらやっていただきたいと思います。

●委員長 ありがとうございます。そういったところを病院機構で精査していただき、対応策を検討されるようお願いいたします。

それでは、小項目(1)「予算執行の弾力化」に戻りまして、特徴的な予算執行がなかったため、評価の対象外とさせていただくことでよろしいでしょうか。

～委員から異論なし～

~~~~~

●**委員長** では、次に移らせていただきます。

では、次の小項目(2)、「収入の確保と支出削減」につきまして、この項目については仮評価も「3」で一致しておりますけれど、御意見や御質問はございますか。

～委員から意見なし～

●**委員長** 御意見等ありませんようですので、この項目の評価は「3」とさせていただきます。

それから、中項目2「市からの財政支援」ですけれど、これにつきましては市が負担すべき経費を決めているということで、評価の対象外とさせていただいておりますが、よろしいでしょうか。では、この項目は対象外とさせていただきます。

●**石原委員** よろしいでしょうか。市からの財政支援の項目に関して、5,000万円の追加支援がなされている訳ですが、当初予算、年度計画では赤字が1億2,000万円だったのが、4,000万円の赤字決算に落ち着いているのですよね。この5,000万円の理由というか、必要性というか、それはどういったものだったのですか。

●**病院機構事務局長** 3月補正予算に向けまして、その前月、前々月辺りに法人の決算見込をはじくんですけれど、その時点で、資金繰りについては12月には賞与支払があるということで機構が独自で短期借入をしたわけなんですけれど、それとは別に年度末の決算見込について、1億2,000万の赤字予算に対してどういう決算見込になるかをはじくんですけれど、10月・11月辺りはちょうど28年度が一番大きな機能変更であった病床の転換、地域包括ケア病床への転換が、府中北市民病院が9月でしたかね、で、それから2ヶ月遅れの11月に府中市民病院が転換したんですけれど、その転換した単月の経営成績が正確に出るのが2ヶ月後というところで、実際に一番大きい病床転換のところの効果がどれだけ見込めるかというところが十分見えてこない段階での決算見込をしました。

で、中でも一応シミュレーションをしていますので、恐らく、両病院が病床転換をしたことが十分経営成績に反映されるだろうと、一番上方の収益を3月まで計算していった、実際には2月は日数が少ないので収益が下がらざるを得ないんですけど、それを加味して3月までの決算見込をはじいたときに、このまま行くと資金繰りそのものが資金ショートする可能性がありますよというところで、行政と協議する中で、年度末に資金ショートさせないというところで行政も分析しましたし、そういう中で5,000万の追加支援を判断いただいた。

で、結果として、12月、1月、2月、3月と、その決算見込よりも好成績だったという結果が28年度の決算に反映されたということで、補正をお願いする段階での決算見込よりも実際の決算の方が良い成績だったということです。結果的な話

ということですね。

●石原委員 病床転換がそれだけの効果があったということですか。

●病院機構事務局長 はい。あったということです。結果的に資金ショートも回避できて、一時借入も全額返済することができました。

●委員長 よろしいでしょうか。それでは大項目の第4を終わります。

~~~~~

●委員長 では、次に移らせていただきます。

●委員長 次は大項目の第5に移らせていただきます。34ページですね。

「その他の業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置」ということなんですけど、中項目1、「市の健康福祉関連施策への積極的協力」。これも皆さんの意見が一致しております。評価は「3」でございます。

~~~~~

●委員長 それから、2番目の「医療機器などの整備」。これがオーダーリング、駐車場の整備。これも皆さんの意見が一致しております。「3」でございます。ここはよろしいでしょうか、評価は。

●平田委員 去年なんかは、医療機器、大分子予算オーバーで、MRIとかCTを入れられましたよね、その効果とかそういったところはどんな状況ですか。

●病院機構理事長 まずCTにつきましては、これまでよりも16列から64に、高性能のものにしまして、一番大きく変わったのは、冠動脈のCTができるようになりまして、着実に件数も増やしていますし、それから周囲の先生方からのCTのオーダーも増えております。MRIはまだちょっと十分とは言えませんが、これも月々に件数が増えてきております。投資した効果というのは着実に上がっているというように考えております。

●平田委員 MRIは特に高いですから、投資が回収できるようにしっかりと使っていただいて、ああいったものが収益に大分つながると思いますので、しっかり運営していただければ。

●病院機構理事長 脳ドックが始まってから 大分それも、これは周知の問題で、府中市民病院はしてないというふうに思っていた方々も多かったもので、そのところを、周知に伴って希望者も増えてきております。

●平田委員 しっかりその辺りね、広報されたりしてやっていただければと思います。

●委員長 ありがとうございます。導入した医療機器を有効利用、活用していただいて、収益につなげていただくと。

それから脳ドック、僕も知りませんでしたね。広報をぜひしていただければ、ど

んどん行かれると思いますから、私も、それじゃあ皆さんに言うておきます。

それじゃあ、ここの評価は「3」ということでさせていただきます。

~~~~~

●**委員長** 続きまして、大項目の第6、『予算、収支計画及び資金計画』について、検討していきたいと思います。

この項目は、28年度の取り組みとか実績を財務面で表すものとしての決算ということでございましたので、数字で表しておりますけども、これを、そういうことでありましたので、事前の仮評価の対象とはしておりませんでしたけども、今日はいろいろ機構の方からも説明がありましたし、議論もありました。その辺を踏まえまして、財務面での評価を行っていただきたいと思います。

機構の方からもお話がありましたけども、財務評価に当たりまして何か追加がございましたら、補足といいますか、ございませんか。

それでは、なければ、皆さん、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

これは30年に向けての、赤字を解消していく上での方向性といいますか、これが出てくると思うので、どうでしょうか。

●**平田委員** これは、目標の中で、プライマリーバランスをどこで達成していくかという話なんですけど、そのときには市からの繰入が幾らでいくかと。もともと評価委員会、機構ができたときが、3億という話できておったと思いますけど、今それが4億5,000万であった、そういった中でも、またさらにプライマリーバランスは達成できてないという状況ですので、しっかりそういったところを、これは順調なところを含めて、しっかり分析していただいて、できるだけ健全な運営をしていただければと思いますので、これは要望ですけど、よろしくお願いいたします。

●**委員長** ありがとうございます。

●**石原委員** 一点、今回短期借入が1億5,000万円、12月にあるんですけど、大体年末に資金的なことが難しく、減る時期なんですけど、12月って。

●**金澤委員** ボーナスがあるんです。

●**石原委員** 賞与が。

●**病院機構事務局長** 実は年度当初予算の市からの繰入は、本当に年度当初に資金を入れていただきますので、それで6月の賞与の支払い等があります。それ以降の経営成績によって、やはり12月の賞与が一番大きい現金の出になりますので、一番大きな山になると、12月です。

●**石原委員** 市の繰入が年度の初めに入ると。これはもう1年分全部。

●**病院機構事務局長** はい。

●**石原委員** それで間が難しくなるという、状況によってということですね。わか

りました。

●**委員長** よろしいでしょうか。評価でございますけど、機構の方の評価が「3」というので、中期計画の目標を、収支計画を達成しておるということで評価は「3」となっております。いかがでしょうか。今後いろいろ原因精査をしまして、平田委員がおっしゃったようなことを対応して行って、進めて行っていただきたいと思うんですけど、どうでしょうか。順調に経過しているということでよろしいでしょうか、「3」で。御意見があったら。ございませんか。

●**平田委員** これ、本当になかなか難しい問題だと思うんですけど、府中市の人口がすでに4万を切ろうとしていますので、そういった中で、市立病院が精神科を含めて三つあるわけですね。そんな自治体はなかなかないんじゃないかというようにも思っていますので、そういったところをどうしていくかと。これは市立病院ですから、病院機構もですけど行政の方も本気考えていただいて、今後どうあるべきかというのは、しっかり協議を府中市ともしていただきながら、今後の方向性というのを、今2期の中期目標期間であります。だからその次を、さらに来年、再来年に向けてはその次を考えられなければいけないと思いますので、ぜひ、これは行政と機構の方に、両方をお願いしておきたいと思っておりますけれど。本当、人口減少が止まりませんし、そういった中でいつまでもそういったものが必要なのか、もっと効率的な運営を考えないといけないんじゃないかと思っていますので、ぜひよろしくお願ひします。

●**委員長** 行政の方も機構の方も、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

それでは、評価は「3」ということでよろしいでしょうか。させていただきます。

~~~~~

●**委員長** 次は、第7、第8、第9でございますが、第7の短期借入金については財務諸表で確認していただいておりますし、評価対象外とさせていただきますかどうかと思いますが、よろしいでしょうか。

次の第8、第9については該当がないということで、評価対象外となっております。よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。以上で小項目の評価は終了しました。

~~~~~

●**委員長** これからは大項目の評価をさせていただきますと思っておりますけども、事務局、よろしいですね。これから大項目の評価をさせていただきます。事務局の方からただいまの評価を集計していただいて、説明をしてくださるということですね。それじゃあ、よろしくお願ひします。

●事務局 それじゃあ、すいません、着座にて失礼させていただきます。

この大項目評価につきましては、S、A、B、C、Dの5段階で評価をするようになります。この5段階評価につきましては、Sが特筆すべき状況にある、Aが、小項目評価が、すべて3から4…。

●委員長 参考資料の2。

●事務局 参考資料でいいますと参考資料の2、一番最後から2番目の資料の2ページ目になります。2ページ目の資料の中ほど、大項目評価という欄があるかと思えます。その中ほど、「評価」というところがありますけれども、先ほど言いましたが、Sが「特筆すべき進行状況にある」、Aにつきましては「年度計画を順調に実施している（小項目評価が、すべて3～4）」の場合がAです。Bの場合は、「小項目評価の3～4の割合が概ね90%以上」がBとなります。Cにつきましては、「小項目評価の3～4の割合が概ね90%未満」、それからDにつきましては「重大な改善事項がある」ということで、「評価委員会が特に認める場合」ということとなります。

先ほど委員の皆様にご議論いただきました内容から機械的に大項目評価を算出をいたしました結果なんですけれども、この表の大項目第2につきましては、一番下へ大項目の評価欄が空欄であると思えますので、順次そこへ記入をいただければと思えますけれども、大項目第2についてはC評価、3から4の割合が86.4%ということでC評価。

1枚めくっていただきまして、大項目第3につきましてはすべて3ということでA評価。それから大項目第4ですけれども、すべて3以上ということであればA評価に該当するんですけれども、項目数が一つと少なく、また4ではなくて3という評価であることから、これはB評価が適当であろうかと。4であれば、これはA評価であろうかと思うんですけれども、3でありますのでB評価が適当であろうかと、いう結果になろうかと思えます。

もう1枚めくっていただきまして、第5。第5につきましても小項目が二つと少なく、これも3がすべてですので、Aという評価もあるんですけれども、4の評価がいずれもないということで、B評価が適当であろうかと。

それから、第6につきましても先ほどと同じ理由でB評価ということになろうかと。機械的にいきますとそのようなことになろうかと思えますので、どうぞ御審議をよろしくお願いいたします。

●委員長 大項目の評価に移らせていただきますけれども、最初に大項目の第2の大項目評価、これが「C」と。3と4が86.4%だったということですね。それで「C」ですね。これでいうと年度計画がやや遅れているということなんです、いかがで

しょうかね。

今のは御意見、いかがですか。「C」でよろしいでしょうか。概ね90%というところ、非常にファジーですね。

●平田委員 この概ねってどのくらいの幅があるんですか。

●委員長 主体的な感覚、私のですよ。感覚としたら、まあ順調といえば順調に、あるものは、子育ての環境整備なんかでは「2」になっておりますので、大きなところから考えますと、私の意見としては「B」、概ね「B」かなと思ってますが、皆さんのご意見を伺いたいと思いますけども、いかがでしょうか。

●平田委員 「B」でいいと思いますよ。

●委員長 それでは、「B」でよろしいでしょうかね。「B」というのが大体真ん中ということなんでしょう。概ね90%と、内容的にも「B」でよろしいということにさせていただきます。これは「B」ということです。

~~~~~

●委員長 それから、次の大項目の第3。これは「A」なんですね。これ、「A」になった場合は、これ、「S」にするかっていうのを検討するんですか。

●事務局 特筆すべき事項があればもう一ランク上の「S」の評価になりますが。

●委員長 「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」ができていますか。どうでしょうか、「A」でよろしいでしょうか。それでは、「A」にさせていただきます。これを付けていただくということですね、「A」を付けてください。

~~~~~

●委員長 それでは、次の大項目の第4。「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」。これは大項目評価「B」ですね。これは1項目しかないんでございますけども、「3」ということで、これは標準ということですよ、「B」で。

～委員から異論なし～

~~~~~

●委員長 それでは、次の大項目の第5。これも「3」、「3」で項目は少のうございますので、「4」がないということで標準的なということで「B」でよろしいでしょうか。

～委員から異論なし～

~~~~~

●委員長 次は予算。これも1項目しかございません。「3」ということで、これも概ね順調に実施できているということで「B」ということでございますけども、よ

ろしいでしょうか。「B」でよろしいでしょうか。

～委員から異論なし～

~~~~~

●委員長 あとは、7、8、9はございません。これで大項目の評価は終わりました。よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございました。

~~~~~

●委員長 それでは、続きまして、次第に沿って、参考資料の3。この27年度の業務実績に関する評価ということですが、これ、去年の評価結果でございますけれども、1枚めくっていただきますと、全体評価というのがございますけれども、本日のこの評価でございますけれども、これ、委員の皆様から今いろいろご意見いただいたりいたしましたけれども、これを踏まえて今年度の全体評価につきまして、このような形でまた整えさせていただきたいと思っておりますけれども、全体評価につきましては委員長一任ということでさせていただきたいと思っておりますが、それでよろしゅうございますか。

(複数の委員から「はい。」との発言あり)

●委員長 よろしいでしょうか。それではそのようにさせていただきます。ありがとうございます。

~~~~~

●委員長 それでは、次、次第の5の(2)、報告事項、府中市病院機構の平成29年度の計画ですか、年度計画について報告をお願いいたします。

●病院機構理事長 それでは、資料6をごらんください。地方独立行政法人府中市病院機構の29年度の年度計画でございますが、28年度と比べて新しく加わったことを中心に御報告したいと思います。

まず、3ページをごらんください。住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上ということでありますが、(2)の「予防医療」になります。この中での新規の取組としましては、府中北市民病院での通所リハビリテーション事業の開始であります。このほかの予防医療につきましては、住民の方々の健康寿命を延ばしていくということを実現するために、市との連携、そして医師会とも連携を密にして、いろんな活動をしていきたいというふうに考えております。

また、(3)の救急医療に対しましては、4ページの上の方にありますように、常勤医師を初め非常勤医師の先生方の充実というのが不可欠だと。運営負担金を有効に活用して救急体制維持に努めていきたいと思っております。

また、4ページ一番下のところでありますが、「両病院の将来像の確立」。これは

今回もあまり取組ができてなかったところがございますが、この将来像の確立に当たって、昨年度市が外部委託によって実施しました府中市病院機構の経営に関する調査と分析の報告書を参考にしながら、また、府中市地域医療再生計画に則って府中地区医師会の医療機関との連携を図りながら進めていきたいというふうに考えております。

また、「必要な診療機能の確保」につきましては、府中市民病院及び北市民病院の婦人科。今は外来だけでなく婦人科検診もできる医療機関として大きな役割を担っております。この存続に努めていきたいというふうに考えております。

また、この府中地域に必要な診療機能で、近隣病院、そして診療所との連携の役割分担によって、不足する機能については、その確保に努めていきたいと思っております。

また、(3)のICT技術についてであります。HMネットの推進を進めていきたいというふうに考えております。

また、地域ケアシステムの構築につきましては、府中市民病院内に設置された市の地域包括支援センター、サブセンター機能については、更に機能が発揮できるように努めていきたいと思っております。

それから6ページの中ほどであります。「医療・介護の総合的なサービス提供」につきましては、府中北市民病院では、議論の中でもありましたけど、空床になっている病院の4階施設を有効活用していくように考えております。

それから、新規ではないんですが、一番下の臨床研修制度の充実につきましても今回も評価の低かった部門であります。陽正会との連携を更に密にするとともに、広島県のふるさと枠、そして岡山大学の広島県枠のドクターの招聘ができるように、今も既にいろんなプログラムというか研修の教材などもつくりつつありますので、そういったものを充実させていきたいというふうに思っております。

また、看護師養成につきましては、北市民病院の診療圏域において地元の高校生、中学生を対象とした、病院事業とか奨学金制度の説明会を行うなど、将来的な人材確保に努めていきたいと思っております。

また、8ページの下の方にありますが、「運営管理体制の確立」でありますけど、理事会の機能強化、そして経営戦略会議の再編成といったことで強化をしておりますが、さらに今年度は、事務局の要となる人事課長、そして総務課長を市から招聘して事務局体制を強化していきたいと考えます。

それから、少し飛びまして10ページの財務内容の改善であります。この第2期中期計画の初年度となる平成28年度の次年度に向け、目標達成が見込める経営改善に取り組んでまいりました。今年度の当初予算は引き続き赤字予算となります。

けど、黒字化の達成に近づく経営成績を見込んでいますために、この予算を年度途中で下方修正することがないよう、目標管理を徹底していきたいと思っております。経常収支比率は平成29年度は99.1%を目標としております。

少し飛びまして、最後、15ページであります。本年度の投資的費用は3,770万円を上限としたいというふうに考えております。

以上で年度計画の報告を終わります。

●**委員長** ありがとうございます。ただいまの29年度の年度計画につきまして、委員の皆様、御意見、御質問はございませんか。

●**平田委員** しっかり頑張ってください。

●**委員長** それでは、ありがとうございます。

~~~~~

●**委員長** それでは、続きまして、おしまいの5の(2)、報告事項の②の「地方独立行政法人法の改正による評価委員会の所掌事務（役割）の変更について」でございますが、これにつきまして、説明をお願いいたします。

●**事務局** 本年6月の地方独立行政法人法の改正によりまして、評価委員会の役割の見直しが行われましたので、報告させていただきます。資料7の1ページをごらんください。

「1 地方独立行政法人法の改正概要」でございますけれども、主な改正点は、評価委員会に関しましては、(2)の「ア P D C Aサイクルが機能する目標・評価の仕組みの構築」、特にその下の「評価者を評価委員会から設立団体の長に変更」が関係してまいります。施行は平成30年度からとなります。

評価委員会の役割の変更の内容でございますが、「2の評価委員会の役割」の1つ目の丸に記載しております。

具体的には、申し訳ありません、2ページ目をごらんください。

2ページ目の一番下の、角の丸い四角で囲ってある部分をごらんください。そこにありますように、評価委員会の現行の1から8の業務、上の表の左側の業務、1から8の番号が振ってある業務ですけれども、この業務を廃止し、この評価委員会で行っていただいております評価等につきまして、来年度からは市長が行うこととなります。

また、法律の規定上は、評価委員会は、中期目標の期間終了前に市長が行う業務実績評価に対して意見を述べるのみとなり、評価委員会の開催は、最少で4年に1回のみとなります。

続いて、3ページ目をごらんください。併せて、評価委員会の業務の精査が行われておりまして、今まで評価委員会の意見が必要でありました、網掛けの部分の業

務についてですが、多くの項目で、法改正後は、評価委員会からの意見聴取が不要となります。

ただし、申し訳ありません、1 ページ目にお戻りください。2の「評価委員会の役割」のところの丸の二つ目に記載しておりますけれども、法改正により見直された業務につきましては、引き続き評価委員会の積極的な関与が可能との考えも国から示されておりました、その下の「3 今後の市としての対応」に記載しておりますが、今後国や他団体の対応等を参考に、この委員会の業務について、府中市としての考えを整理し、皆様にお示しをさせていただきたいと考えております。

以上、駆け足の説明となり申し訳ありませんでしたけれども、法改正による評価委員会の役割の変更に関する説明は以上でございます。

●**委員長** ありがとうございます。いかがでしょうか。おわかりになりましたでしょうか。質問はどうでしょう。

●**平田委員** 今回この法改正となった趣旨は、どういったことからこういった改正がされたんです。背景とか課題とか、何かあってこうなったんだろうと思うんですけど、何かあるんですか。

●**事務局** すいません、じゃあ、私の方から。この法改正につきましては、地方独立行政法人法の改正なんですけど、元となったのが、国の独立行政法人の改革です。国の方は、今回の地方も同じなんですけど、市の方が、設立団体が目標を立てて、それに対して運営していくという形になります。目標を立てた者と評価する者が別であると、今回書いてあるP D C Aサイクルがうまく回らないだろうと。あくまで目標を立てた者が評価すべきじゃないかということで、評価者が評価委員会から設立団体の長に変わったという流れの中の変更となっているものです。

●**平田委員** そうであれば、評価委員会を残す意味は何なんですか。

●**事務局** 中期期間の総合的な評価の面で、外部の意見を聞くべきだということで、今回4年に1回という法律改正にはなっております。

●**平田委員** 説明を聞いていると、今後、市としての対応を決められるということのようなんですけども、どうされるかいうのもあるでしょうけど、特にこの府中の評価委員会は、特に広島大学と岡山大学の方から両方から来ていただいて、日程調整も大変なことというのはよくわかってるんですけども、元々、特に府中市民病院が岡山大学と広島大学の両方から支援をいただきながらできてるということもあって、元々市立病院にしたときにそういった連携を、いわゆる県境をまたぐということもおかしいんですけど、岡山大学、広島大学、モデル的な病院機構になるというようなことで始まっていると思うんですね。だからそういった意味でいえば単に4年に1回だけというのではなく、毎年のこういった、評価の仕方をどうするかとっていうのもある

うかと思えますけども、現状というものは、少しは皆さんで集まって、状況を見ながらですよ、ぜひ広島大学なり岡山大学の方から御支援をいただくようなことは必要なんだというように思うので、評価は別にしないにしても、こういった集まりとか、状況の評価委員に知っておいて、最終的な委員会評価はそれでいいと思いますが、そういったのも必要ではないかという気は、私はするんですが、どんなでしょう。

●**委員長** そうですね。平田委員のおっしゃるとおりだと思いますね。今までの経緯がありますし、それからみんな支えてきて、考えながらやってきておりますので、評価は別にして、そういう御意見を伺ったり、それをまた次に役立てていうんですか、位置付けていくというようなことも非常に重要なことだと思いますね。岡大の先生方、広大の先生方に非常にお世話になって。それあつての今の府中市民病院でございましょうから、ぜひこれからもあまり時間を空けずに、やっぱり御意見、それから結果を見て話をするだけでも本当に素晴らしいことだと思いますので、ぜひその辺を考えていただければと思います。

●**市長** ちょっとすいません。これから市長ということでございましたので、見解といたしましては、引き続き病院機構の運営に対しまして御支援をいただけるようでしたら、ぜひ、ありがたいというふうに思っております。

また、委員の皆様には、御賛同いただけるならば、ぜひとも前向きにこれから検討をしてまいりたいというふうに考えておりますので、引き続きの御協力をお願いしたいという気持ちでおりますので、よろしく願いいたします。

●**委員長** それじゃあそのように前向きに検討をお願いします。ほかに御意見ございませんでしょうか。よろしいですか。それでは、そのように検討をよろしく願いいたします。

これで議事は終わりですね。委員の皆様、本日は長時間ありがとうございました。今後につきましても、きょうの皆様の意見をもとに、さらなる発展を遂げていただくよう頑張っていたきたいと思えます。よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは、事務局の方にお返しします。

●**健康福祉部長** 谷委員長、ありがとうございました。委員の皆様方におかれましては、本日は長時間にわたりまして熱心に御議論いただきまして、誠にありがとうございました。これを持ちまして、平成29年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を閉会とさせていただきます。

午後 9時 26分

~~~~~